

科目	数学A	学年	第1学年	開講	通年	必修	2 単位
----	-----	----	------	----	----	----	------

教科書:「高等学校 数学A」数研出版
副教材:「4プロセス 数学 I +A」数研出版

1 学習の到達目標

図形の性質、場合の数と確率について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

2 学習計画及び評価方法

- a 知識・技能
- b 思考・判断・表現
- c 主体的に学習に取り組む態度

学期	項目	単元	学習内容	学習のねらい	月	考查	評価の観点		
							a	b	c
前期	場合の数と確率	場合の数	集合の要素の個数	場合の数を求めるときの基本的な考え方についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	4	中間	○		○
			場合の数		5		○		
			順列				○	○	○
			組合せ		6		○	○	○
		確率	事象と確率	確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	7	期末	○	○	
			確率の基本性質				○		○
			独立な試行と確率		8		○		
			条件付き確率		9		○		
			期待値				○		
			前期 授業評価						○
後期	図形の性質	平面図形	三角形の辺の比	平面図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	10	中間	○	○	
			三角形の外心・内心・重心				○	○	
			チェバの定理・メネラウスの定理		11		○	○	
			円に内接する四角形				○	○	
			円と直線		12		○	○	○
			2つの円		1		○		
		空間図形	直線と平面	空間図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	2	期末	○	○	
			空間図形と多面体				○	○	○
		後期 授業評価					○	○	○

3 評価の観点

- ・ 数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとしているかどうか。
- ・ 事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身につけ、的確に問題を解決できるかどうか。

4 評価の観点

- 知識・技能：定期考査
- 思考・判断・表現：定期考査・レポート
- 主体的に学習に取り組む態度：ワークショップ型授業・レポート